

2. 江部乙地区（コンパクトタウン）

2-1. 地区の概要

(1) 成り立ち

江部乙は、「滝ノ川」を境に北のユーベオツ川（江部乙川）（アイヌ語の「ユーベオツ（「ユーベ」＝「チョウザメ」、「オツ」＝「多い」）」）までの兵屋建設を行う際に、区域分離のためにつけられた名称という説があります。

江部乙の歴史は、明治 27 年に屯田兵 400 戸が移住して開墾と北方警備に当たり、明治 42 年に滝川村より分離独立して江部乙村が設置されました。江部乙における移住者の属性は、滝川屯田と異なっており、農業職の平民が多かったため、開拓の成果は大きく、現在も農業中心の地域として継続しています。

明治 42 年に滝川村（後の滝川市）から江部乙村（二級）が分離独立したあと、大正 4 年に江部乙村が 1 級村に移行し、昭和 27 年に江部乙町になりました。その後、昭和 46 年に滝川市と江部乙町が合併し、現在の滝川市となりました。

江部乙の市街地は、明治 31 年に江部乙駅が整備され、戦後、昭和 50 年代前半から昭和 60 年代後半にかけて都市計画事業による道路、公園等の整備が進められ、江部乙とん田公園、江部乙公園、からまつ公園、江部乙中央児童公園が整備されました。特に、江部乙公園は昭和 50 年に開園された緑寿園に近接して造成され、その一体を老人福祉村として運動広場や修景広場、遊戯広場、観賞果樹園、観賞池、花園などの整備が進められました。

また、江部乙十二丁目通、十三丁目通、東一線通の道路整備やリサイクルなどの都市施設が整備されるなどして、現在の市街地が形成されています。

(2) 地区構成

本市の北部、国道 12 号沿道に位置し、国道の西側は J R 江部乙駅を中心とした商業地と北辰団地を含む住宅地、東側には江南団地や新興団地を含む住宅地が広がっています。国道 12 号沿道は、住宅地を基本としながらも、J R 江部乙駅の駅前通りの交差点付近を中心に、利便施設が点在しています。

J R 江部乙駅前の商店街に生活利便施設が立地し、国道 12 号の東側に、江部乙小学校、江部乙中学校の教育施設、緑寿園や若葉台病院、ナイスケアすずかけなどの医療・福祉施設が点在しています。また、道の駅たきかわが国道 12 号沿道に立地しています。

地区の周辺には、丸加高原を代表とする滝川市の自然・観光資源が豊富に存在し、江部乙地区だけではなく、本市の都市づくりにおいて重要な存在となっています。

◆地区を構成する町名：江部乙町西、江部乙町東、江部乙町



図 2.1 農業秋まつり（昭和後期）



図 2.2 リンゴ園（昭和後期）

2-2. 全体構想における地区の位置づけ

- ・ JR江部乙駅周辺の商業地（商店街）に近隣生活便利ゾーン、国道 12 号沿道に日常生活便利ゾーンを配置し、その他の市街地は低密度居住ゾーン（中高層）とします。
- ・ 市街地周辺の農村環境を保全する土地利用とし、公園施設、江部乙川、熊穴川、ラウネ川などの適切な維持管理により、良好な都市環境の維持に努めます。
- ・ 滝川市の 3 つコンパクトタウンの 1 つとして、「田園・農村型のコンパクトタウン」の形成を図ります。
- ・ 国道 12 号については、4 車線化を進めることにより、公共交通の主要路線、都市活動や防災等の面から都市内外の移動の円滑化を図ります。
- ・ 公共施設や下水道施設の適正な維持管理に努めます。

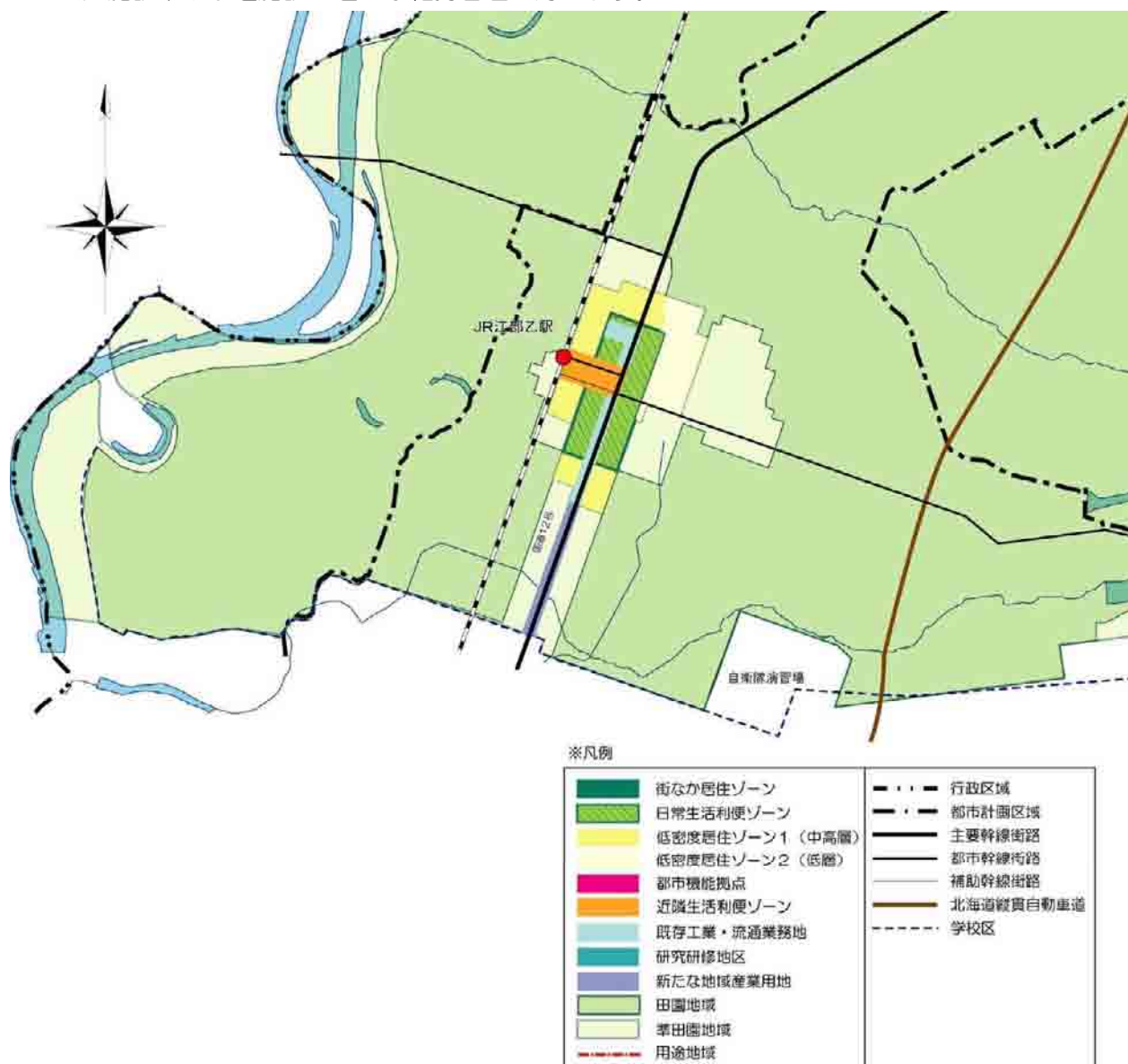


図 2.3 江部乙地区の土地利用方針図

2-3. 江部乙地区の地域別構想

2-3-1. 現状と課題

地区の人口は減少が続き、高齢化が著しく進んでいます。高齢化については、本市内の地区で最も高い割合となっており、4割を超える高齢化率となっています。生活利便施設は、JR江部乙駅前を中心に一定程度集約化されていますが、地区内で暮らしていくために十分な施設が整っているとはいえない状況となっています。また、市街地周辺には、豊かな自然環境や田園景観が存在しているにもかかわらず、土地利用の状況をみると、市街地外縁部において住宅が散在し、郊外型の開発が進んでいる状況も見られます。

未利用地については、市街地内に点在している状況が見られ、一部に大規模な未利用地も見られています。人口の減少が続くと、今後さらなる未利用地の増加も懸念されます。

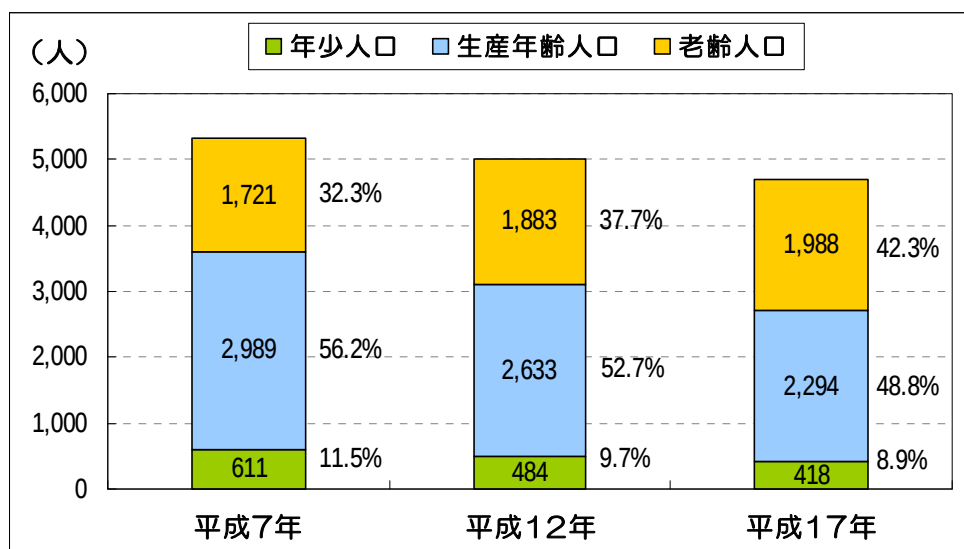


図 2.5 江部乙地区の人口の推移※／各年国勢調査

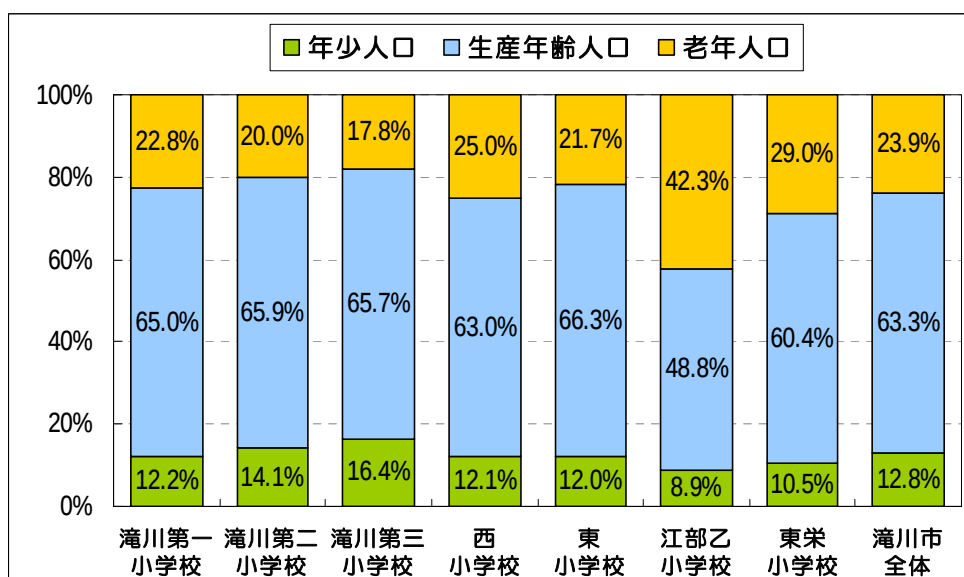


図 2.6 小学校区別の年齢別人口割合／H17 国勢調査

※ 上図の人口は江部乙町西、江部乙町東、江部乙町の合算(学校区と少しずれがある)となっており、下図は学校区の人口と一致しているため、左右の図の平成17年時点の人口比率の値は若干異なっている。

以上の現状から、今後の地区における都市づくりの課題として、以下のものがあげられます。

課題

- ①移住・定住の促進や高齢者が住み続けられる環境づくり
- ②生活利便性の向上
- ③自然環境、田園景観の保全
- ④未利用地（空き地）の活用



図 2.7 江部乙地区の現状・課題図

※未利用地(宅地): 未利用宅地のほか資材置き場、青空駐車場、屋外運動場、屋外展示場が含まれる

2-3-2. 地域資源

地区内の地域資源は、自然環境としては丸加高原やコスモス畑、菜の花畑、石狩川、江部乙川など豊かな環境に恵まれています。また、JR 江部乙駅や道の駅たきかわ、江部乙温泉、そらぶちキッズキャンプ、江部乙市民水泳プール、リサイクルンなどに加え、若葉台病院や緑寿園、ナイスケアすずかけ等が立地し福祉施設が充実しています。歴史的な資源としては屯田兵屋や沿岸道路が、郊外部には、農家レストラン等が存在しています。



図 2.8 江部乙地区の地域資源図

2-3-3. 江部乙地区の地域づくりの方針

(1) 将来像

恵まれた自然・農村・観光資源を活用した、魅力とゆとりが溢れるまち

(2) 地域づくりの目標

【目標 1】 田園・農村型のコンパクトタウン

JR 江部乙駅前周辺と国道 12 号沿道に生活利便施設等を集約するとともに、周辺の豊かな自然環境や、農村景観と調和した魅力ある市街地形成を推進し、コンパクトで暮らしやすい地域づくりを進めます。

【目標 2】 観光資源を活用した交流拠点の形成

丸加高原や道の駅たきかわ、農家レストランなどの観光資源を活用するとともに、観光資源間の連携強化を図ることで、地域内外の多様な交流を促進し、活力あるまちづくりを推進します。

【目標 3】 高齢者が安心して暮らせるまち

緑寿園やナイスケアすすかけなどの既存高齢者福祉施設を活かし、高齢者向け共同住宅や小規模な福祉サービスを充実させ、高齢者が安心して住みやすい居住環境の形成を目指します。また、JR 江部乙駅前周辺や国道 12 号沿道に生活利便機能を集約することで、歩いて生活ができる環境を目指します。

2-3-4. 地域の整備方針

(1) 整備の方向性

◆生活利便性を高めるとともに、周辺の農村・自然環境を保全し、田園・農村型のコンパクトタウンを実現します。

JR 江部乙駅前周辺と国道 12 号沿道に生活利便施設を集約し、生活の利便性を高めます。また、未利用地などの利用を促進して、便利でコンパクトな市街地を形成します。

◆観光資源の連携やメニュー・内容を充実するとともに交流拠点としての機能を強化し、地区の活力を創出します。

観光資源である丸加高原や道の駅たきかわ、農家レストランに加え、体験型農業や地場食材の加工・販売などの観光メニューや内容を充実するとともに、それらと連携を図りながら一体となって情報発信をすることで、市内外から多くの利用者を取り込み、活力ある地域の形成を図ります。

◆高齢者が便利で安心して暮らせる生活環境を実現します。

幹線街路沿道を中心として、高齢者向け共同住宅や歩道の整備を促進するなど、歩いて暮らせる生活環境の形成を図ります。また、既存の福祉施設に加え、小規模な福祉サービス施設の立地を誘導し、高齢者も安心して暮らせる生活環境を目指します。

(2) 整備方針

【方針 1】 土地利用・居住環境

- 地区の生活利便性を向上するため、国道 12 号沿道に生活利便施設等を誘導し、集約化を図ります。
- 高齢者が住みやすい環境づくりやまちのコンパクト化を進めるため、共同住宅等、幹線街路沿道の中高層の住宅整備を誘導します。
 - 民間事業者への未利用地に関する情報提供や共同住宅の立地誘導、市営住宅の建て替えの検討など
- 高齢者の生活負担を軽減し、安心して暮らし続ける環境づくりを進めるため、市街地への季節居住や移住を促進します。
 - 移住・定住施策や、一般社団法人移住・住み替え支援機構（J T I）との連携等を検討。
- ゆとりある居住環境を形成するため、地区計画や景観計画の活用を検討します。
- まちのコンパクト化を進めるため、市街地外縁部における農村環境（準田園地域）の保全を目指します。
 - 特定用途制限地域等による土地利用の見直し
- 地区の生活利便性向上、住宅地の魅力や住みやすさの向上を図るため、未利用地を有効活用します。
 - 生活利便施設の誘導、地域のコミュニティガーデンなどとしての活用（借地として地域住民やまちづくり団体などが管理するなど）を推進するなど
- 魅力ある住宅地を形成するため、地域資源である菜の花やコスモスなどの花を活かした住宅地景観の整備を促進します。
 - 国道沿道における V S P（ボランティアサポートプログラム）の推進、ガーデニングコンテストなどのイベント活用等による住宅地における花植え促進など

【方針 2】 交通体系

- 滝川市街地（コンパクトタウン）とのアクセス強化を図るため、都市計画道路の大通（国道 12 号 北滝の川～江部乙町十三丁目）の 4 車線化、未整備都市計画道路十二丁目通（道道江部乙赤平線）及び未改良道路の整備を推進し、歩行者、自転車空間の整備を目指します。
- 歩いて便利に暮らせるコンパクトなまちづくりを進めるため、生活道路における歩行者空間の整備を促進します。
- 滝川市街地（コンパクトタウン）とのアクセス強化を図るため、幹線街路における既存バス路線の充実を目指し、関係機関との協議を行います。
- 農村部に住む高齢者等の生活利便性向上を図るため、新たな公共交通の導入を検討します。
 - 乗り合いタクシーなどの導入検討

- 地域の観光資源を有効に活用して地域の魅力と活力を向上するため、丸加高原と市街地を結ぶ道路の環境整備を促進します。
○よりわかりやすいサインや、フラワーロードの検討など
- 交通拠点としての利用者の利便性向上、また、地域資源の活用の観点から、ＪＲ江部乙駅の整備を促進します。
○駅前広場の整備や老朽化した駅舎の改修準備の検討など
- 自転車歩行者専用道の未完了部分の整備を促進します。

【方針３】都市施設等

- 地区の生活利便性向上を図るため、ＪＲ江部乙駅周辺、国道１２号沿道において生活利便施設の立地誘導を図ります。
- 高齢者が住み続けられる環境づくりを進めるため、既存福祉施設を適切に維持し、商店街の空き店舗や空き家の活用などによる小規模な福祉サービス施設の立地を誘導します。
- 地区の魅力・活力の向上を図るため、直売所・農産加工品の販売、地域情報・観光情報の発信等、道の駅たきかわの観光拠点としての機能強化を図ります。
○道の駅たきかわの整備促進、フットパス事業を活かした他の観光資源等と道の駅を結ぶルートの環境整備、地域情報発信の拠点・仕組みづくりなど
- 豊かな環境を活かした魅力ある景観づくりを進めるため、景観計画区域などを検討します。
- そらぶちキッズキャンプ来訪者が地域との交流を継続する仕組みづくりを促進します。
- 江部乙川の救急排水施設の維持管理を促進し、左岸側への設置を関係機関と協議します。
- 江部乙川の河川改修と流下能力の改善を推進します。
- 生活基盤を適切に維持し、快適に暮らせる居住環境づくりを進めるため、下水道施設の適切な維持管理に努めるとともに、老朽化した下水道施設については、長寿命化を図りつつ、改築更新に努めます。
- 不足する公園施設については、既存公園のリニューアルを図るとともに、民間活力による住宅地開発等を含む中で検討を図ります。

◆江部乙地区の将来構想図



図 2.9 江部乙地区の将来構想図